

夢や希望を育てる道德の授業の工夫 －構造化方式の道德授業の実践を通して－

大里村立大里南小学校教諭 土 居 徹

内容要約

夢や希望をもつ児童を育てるために、総合単元的道德学習を構成し、構造化方式の考え方に立った道德の授業の工夫を行った。道德的価値の自覚を深める手だてとして、まず1つ目に、心に響く資料を活用して、ねらいとする価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた4つの授業の型を考案した。2つ目に、構造化方式のメカニズムに応じた、発問づくりの工夫を行った。3つ目に、道德学習カードや心のノートを活用した道德の時間における評価の工夫（共同評価、ポートフォリオ評価など）を行った。

その結果、児童の道德性が発達すると共に、夢や希望をもつことの大切さに気付き、夢や希望に向かって生きていこうとする意欲が高まった。

【キーワード】 夢や希望 構造化方式 授業の型 総合単元 評価 心に響く資料

目 次

I テーマ設定の理由	21
II 研究内容	22
1 夢や希望をもつ児童を育てるためには	22
2 総合単元的道德学習と構造化方式	22
3 評価の工夫	25
III 授業実践	25
1 総合主題	25
2 総合主題について	25
3 総合主題の目標	26
4 総合単元的道德学習の単元構成表	26
5 本時の学習	27
6 授業仮説の検証	28
IV 研究の考察	29
1 価値が心に結びつくメカニズムに基づいた指導過程の明確化	29
2 発問づくりの工夫	29
3 道德学習カードや心のノートを活用した評価の工夫	30
V 研究の成果と今後の課題	30
1 研究の成果	30
2 今後の課題	30

<小学校 道徳>

夢や希望を育てる道徳の授業の工夫 —構造化方式の道徳授業の実践を通して—

大里村立大里南小学校教諭 土 居 徹

I テーマ設定の理由

これからの社会を主体的に生きるには、夢や希望をもち、自己の目指す生き方を見い出すことが、大切である。そのためには、一人一人が、しっかりとした「よい価値観」をもたなければならない。道徳教育は、「道徳性を養うこと」を目標とする。道徳性とは、「道徳的諸価値が一人一人の内面において統合されたものであり、道徳的行為を可能にする人格的特性」である。つまり、夢や希望をもち、人間としてよりよく生きていくためには、道徳性を育てることが非常に重要である。学習指導要領の道徳教育改善の基本方針の中にも「未来へ向けて自らが課題に取り組み、共に考える道徳教育の推進」とあり、未来に向けて人生や社会を切り拓く実践的な力をはぐくむ指導の充実が求められている。本県の「夢・にぬふぁ星プラン」でも「夢や希望の育成」を図るために「道徳教育の充実」が挙げられており、その必要性は強く叫ばれている。

これまでに道徳の時間では、「勇気・努力」の価値項目を指導するときに「自分自身の夢や希望」を関連させながら授業実践をしてきた。ところが、それだけでは不十分であることに気が付いた。その理由として、2つのことが考えられる。まず1つ目として、道徳の時間全般を通して、ねらいとする価値についての主体的自覚を十分に深めさせることができなかった。常に児童が、ねらいとする価値のすばらしさに気付き、自分自身への問い掛けを深めていくことが大切であると考えた。2つ目は、「勇気・努力」という一つの価値項目だけで、夢や希望を育てることに無理があったことである。道徳性は、道徳的諸価値が一人一人の内面において集積し、統合することによって育っていくからである。夢や希望を育てるためには、計画的・発展的な授業を行うことが重要である。

このように考えていくと、ねらいとして立てた道徳的価値をいかにして児童の心に受け止めさせ、価値の自覚を深めさせるかが指導のポイントとなる。そこで、本研究では、ねらいとする道徳的価値を「構造化方式」によって自覚させていきたい。また、道徳の時間を中心に、有機的なまとまりをもたせた「総合単元的道徳学習」を構成し、意識の継続・発展を図りながら、児童の道徳性をはぐくんでいきたい。

本研究では、総合単元的道徳学習を展開する中で、夢や希望をもつ児童を育てたい。その手だてとして、ねらいとする価値のすばらしさに気付かせるような心に響く資料を活用して、構造化方式の考え方に立った指導過程を明確にしていきたい。また、道徳的価値の自覚を深めさせるような発問づくりの工夫をしていきたい。さらに、道徳学習カードや心のノートを活用しながら、指導（学習）と評価の一体化を図り、自己のよさを発見させ、道徳的価値の自覚を深めさせていきたい。このように、道徳的諸価値の自覚を深めさせることで、夢や希望をもつ児童が育てられるのではないかと考え、本テーマを設定した。

<研究仮説>

総合単元的道徳学習を展開する中で、次のような指導を行えば、道徳的価値に気付き、価値の自覚を深め、夢や希望をもつ児童が育つであろう。

- 1 道徳的価値に気付かせるために、心に響く資料を活用して、ねらいとする価値が児童の心に結びつくメカニズムを構築し、指導過程を明確にする。
- 2 道徳的価値の自覚を深めさせるために、構造化方式の考え方に立った発問づくりの工夫を行う。
- 3 道徳的価値とのかかわりで自己のよさを発見させるために、道徳学習カードや心のノートを活用した評価の工夫をする。

Ⅱ 研究内容

1 夢や希望をもつ児童を育てるには

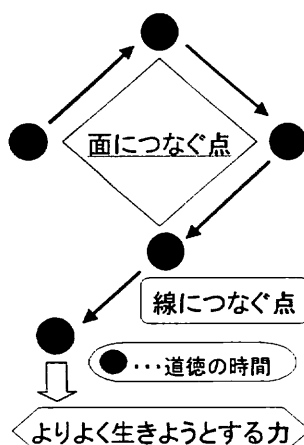
夢や希望をもつ児童を育てるには、夢や希望につながる道徳的諸価値の自覚を深めさせ、調和的な道徳性をはぐくむことが重要である。道徳の内容は、児童の道徳性を4つの視点からとらえており、相互に深い関連をもたせている。つまり、4つの視点と関連付けながら、自己の在り方やよりよい生き方について問い掛けを深めさせることで、夢や希望をもつ児童を育てたい。道徳の内容項目（4つの視点）での夢や希望を育てるための観点を以下の表に示したい（表1）。

表1 「道徳の内容」での夢や希望を育てるための観点

内容項目の4つの視点	夢や希望を育てるための観点
自分自身に関すること	夢や希望を育てるためには、自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ、望ましい自己の形成を図ることが大切である。
他の人とのかかわりに関すること	夢や希望を育てるためには、自己を他の人とのかかわりの中でとらえ、望ましい人間関係の育成を図ることが大切である。
自然や崇高なものとのかかわりに関すること	夢や希望を育てるためには、自己を自然や美しいもの、崇高なものとのかかわりにおいてとらえることで、心を豊かにし、人間らしい心を身に付け、人間としての自覚を深めていくことが大切である。
集団や社会とのかかわりに関すること	夢や希望を育てるためには、自己を様々な社会集団や郷土、国家、国際社会とのかかわりの中でとらえ、国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち、集団や社会をよりよくしようと積極的に働きかけ、道徳的な生き方を培っていくことが大切である。

2 総合単元的道徳学習と構造化方式

(1) 線や面につなぐ総合単元的道徳学習



総合単元的道徳学習とは、児童の道徳性を養う場を総合的にとらえ、各教科、特別活動、総合的な学習の時間などの各教育活動の特質を生かして、道徳の時間を中心にまとまりをもたせた学習活動である。これは、道徳の時間を独立した点としてとらえるのではなく、点を線でつなげると共に、面につながる点として相互に関連させることによって、道徳的实践力の多面的な育成をねらいとする。

総合単元的道徳学習の単元構成は、4つの類型で示されている（笹田『総合単元的道徳学習の実践』（1995年））。本研究は、その中で、類型Ⅱの「複数価値総合型」で行っていく。「複数価値総合型」とは、道徳の時間だけで構成するが、総合主題にせまる複数価値項目を配列し、関連付けて展開する型である。児童に夢や希望を育てるために「かがやけ！夢・未来」という総合主題を設定し、

図1 線や面につなぐ点 児童の実態把握と教師の願いを基に、総合単元を計画する。児童の課題意識を「自分自身」「他の人とのかかわり」「自然や崇高なものとのかかわり」「集団や社会とのかかわり」と発展させ、視野を広げながら道徳学習を深めていきたい。本研究では「点」として位置づけた一つ一つの道徳の時間で、道徳的価値の自覚を深められるように、「構造化方式」の道徳授業を行っていく。

(2) 構造化方式に基づく道徳授業の工夫

① 道徳性の構造

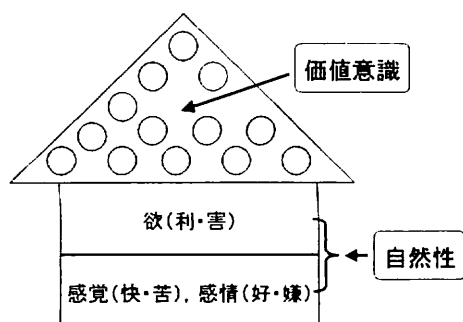


図2 道徳性のモデル

金井は、『道徳授業の基本構造型』（1996年）において図2の道徳性の構造を示した。道徳性の構造は、下段に人間が生得的にもっているもの（人間の自然性）と、上段の価値意識に分けられる。この自然性は、成長と共に大きく強くなる。また、上段の価値意識が充実するにつれて、人生に様々な価値を見出し、自分の人生で目指すものが明確になってくる。つまり、夢や希望をもつ児童を育てるためには、上段の価値意識を充実し、より深いものにしていけばよい。金井は道徳性の構造をこのようにとらえ道徳性育成の原理を2つ示している。

② 道徳性育成の原理

原理1は、「ねらいとする価値だけを児童の心にしっかりと受け止めさせ、その集積としての道徳性を育てる」である。原理2は、ねらいとする価値を、しっかりと自覚させるために「児童の心に道徳的価値が結びつくメカニズムないし筋道を明確にする」とある。要するに、道徳的諸価値を一人一人が大切なものとして心に受け入れ、道徳的価値の自覚を深めることが重要なのである。そこで、本研究では金井が挙げた「児童の心に価値が結びつくメカニズムないし筋道」を参考に、心に響く資料の活用を通して、道徳的価値が児童の心に結びつくメカニズムを構築し、4つの授業の型を考案した。

③ 心に響く資料の活用と資料選定の着眼点

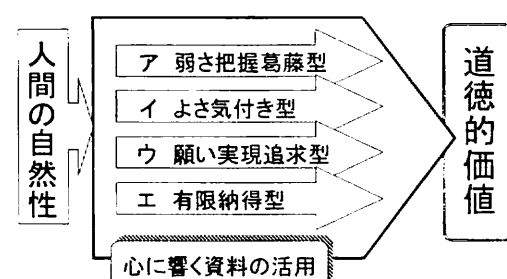
「構造化方式」の道徳授業では、ねらいとする価値を児童の心にしっかりと受け止めさせることが大切である。金井は、道徳的価値が児童の心に結びつくメカニズムに「感動を深めることによる価値の自覚の深化」を挙げている。道徳の資料に対して、児童が感動することができたならば、それ自体、児童の心に道徳的価値が結びつくメカニズムとなるであろう。学習指導要領にも「心に響く資料の選定」として、資料の具備すべき要件（5項目）と具備を心掛けたい要件（5項目）を挙げ、その重要性を説いている。また、「教師自身の心に響いてこそ、よい資料である」とあり、教師自身の心が動いた資料を活用することが望まれる。そこで、本研究は、教師自身の心に響いた資料を活用しながら研究を進めたい。

また、構造化方式では、人間の自然性と道徳的価値の2つの側面に着目して、授業を展開するのであるから、ねらいとする価値の自覚を深めるのに効果的だと思われる資料を用いればよい。

その時、児童一人一人の発達段階、興味・関心、家庭環境などによる受け取り方や感じ方に違いがあることを留意する必要がある。より具体的に資料を選定するための着眼点を以下に示したい。

- ・人間のありのままの自然性を描き出しているか、あるいはそれについて考える手がかりのあるもの。その際、道徳的価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた4つの授業の型（「弱さ把握葛藤型」「よさ気付き型」「願い実現追求型」「有限納得型」）のいずれに該当するかを考える。
- ・自然性とかかわり、道徳的価値について考えることができるもの。
- ・道徳的価値のもたらす喜びの面や児童が自らの生き方を展望するときの手がかりになるものが、含まれているもの。

④ 道徳的価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた4つの授業の型



道徳的価値が児童の心に結びつくメカニズムとは、「人間の自然性を踏まえ、道徳的価値の自覚を深める」ことである（図3）。

構造化方式では、このメカニズムに基づいた、授業を行う必要がある。それをより明確にするため、心に響く資料を活用して、メカニズムに基づいたア～エの4つの授業の型（「弱さ把握葛藤型」「よさ気付き型」「願い実現追求型」「有限納得型」）と、それぞれの指導のポイントを以下に示したい。

図3 価値が心に結びつくメカニズム

ア「弱さ把握葛藤型」の授業

人間は、誰しも誘惑への弱さや感情的な醜い側面をもつ。これは、人間の自然性と道徳的価値が綱引きをし、心が葛藤している状態を示す。この場合、まず第一に、人は誰でも人間としての弱さ・醜さをもつということを把握させることが大切である。そして、この側面は理解しながらも、道徳的価値を実現する喜びに着目させ、心のすがすがしさや人間としての誇りを大切にしたいと実感できれば、ねらいとする価値の自覚を深めたことになる。そこで、自分を好きになりたい、よりよい自分になりたい、誇りをもって生きたいという児童の願いを見据えて指導することがポイントとなる。

イ「よさ気付き型」の授業

人間は、弱さ・醜さという側面をもつとともに、気高く崇高な側面をもつ。これには、3つの側面があると考えられる。それは、「自己犠牲的な面」「よりよく生きようとする面」「弱さ・醜さを克服して生きる面」などである。これらは、人間が元来もっている「よさ」である。価値の自覚は、多くの場合、自分の外側にある道徳的価値を心に受け入れる。しかし、気高く崇高な側面の場合は、自分の心の中に無自覚的にもっている道徳的価値に気付かせ、自覚化させればよい。そこで、自分にも気高いところがあるという自己のよさに気付かせることが指導のポイントとなる。

ウ「願い実現追求型」の授業

人間は、「他者から容認されたい」や「よい友達がほしい」など道徳的価値を直接求める側面がある。基本的に、これらにかかわる道徳的価値について児童は、その必要性や大切さを知っており、ねらいとする価値と合致する願いをもっている。そのため、「どのようにすれば、願いを実現できるか」という角度から指導することが大切である。このように考えると、資料を学習の対象として扱うのではなく、常に自分自身と重ね合わせて考えるようにすることが重要である。そこで、児童の経験を広く活用して、児童自身の問題として考えさせることが指導のポイントとなる。

エ「有限納得型」の授業

「時間的」「空間的」「知り得ること」「なし得ること」などにおいて人間は有限である。時間的、空間的に有限であるので、自らの行動に責任をもち、規則正しい生活をする必要性に気付く。また、知り得ることが有限であるから、他者の立場を尊重し、寛容な心をもつことの大切さに気付く。その他、なし得ることの有限性に気付けば、逆に、なし得ることが幅広くあることに気付き、全力で努力することを学ぶであろう。このように、人間の有限な面を納得し、自覚するだけで、価値の自覚が深まる。それは、児童自身の視野の広がりとなり、喜びと充実感をもって学習に取り組める。そこで、人間は有限であるという「ありのままの人間の姿」を自覚させることが指導のポイントとなる。

④ 構造化方式による指導過程

金井の『道徳授業の基本構造型論』(1996年)と熊本県立教育センターの中川が挙げた「価値の自覚を深める4視点」(2002年)を基に、構造化方式の道徳授業の指導過程と発問の組み立てを示したい(図4)。

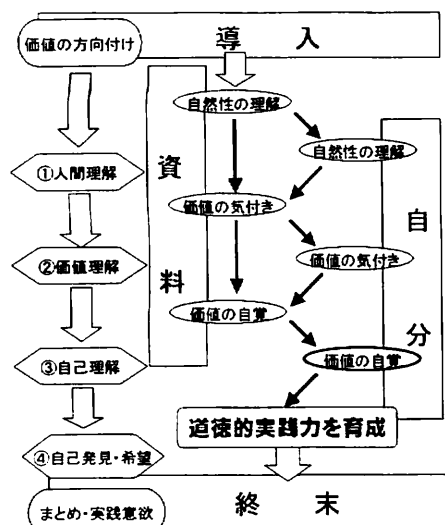


図4 指導過程と発問の組み立て

「構造化方式」の道徳授業は、ねらいとする価値を児童の心にしっかりと受け止めさせることが重要である。その前提として資料を児童自身の問題として考えさせなければならない。そのため、児童の経験を広く活用したり、資料と自分自身を重ね合わせるように考えさせることを基本とする。つまり、「人間の自然性を踏まえて道徳的価値の自覚を深めていく」というメカニズムを理解することがポイントである。「道徳的価値の自覚を深める4つの視点」を以下に示すが(表2)、これは、児童の心に道徳的価値が結びつくメカニズムに基づいた「4つの授業の型」すべてに共通する。

表2 道徳的価値の自覚を深める4つの視点

視 点	内 容
①人間理解	資料と自己を重ね合わせながら、人間の自然性についての理解を深める。
②価値理解	人間の自然性は理解しながらも、ねらいとする道徳的価値のよさに気付く。
③自己理解	気付いた道徳的価値に基づいて、自己を見つめ振り返る。
④自己発見・希望	道徳的価値とのかかわりで、自己のよさや課題を発見する。

⑤ 構造化方式での発問づくり

構造化方式の道徳授業は、ねらいとして立てた道徳的価値を、しっかりと自覚させるために、「発問」は重要な意味をもつ。ここでも「人間の自然性を踏まえ、道徳的価値の自覚を深める」という構造化方式のメカニズムに応じて「発問づくり」をすることが大切である。授業者は、表3にある「構造化方式での発問づくりのポイント」にある6つの項目から、道徳的価値の自覚を深めるために発問の組み立てを行う。

表3 構造化方式での発問づくりのポイント

発 問 の 意 図	内 容
資料の中での「自然性の理解」	資料の中に出てくる登場人物の気持ちを想像したり考えたりする発問
自分にもある「自然性の理解」	資料の中に出てきた場面と同じような状況を自分自身に当てはめて考える発問
資料の中での「価値の気づき」	資料の中に出てくる登場人物の価値への気づきや気持ちの変容を、想像したり考えたりする発問
自分も分かる「価値の気づき」	資料の中での価値への気づきを自分自身に当てはめて考える発問
資料の中での「価値の自覚」	資料の中に出てくる登場人物の価値の自覚の場面を共感的に想像したり、考えたりする発問
自分の「価値の主体的自覚」	価値について、自分自身の問題として考えさせ、自己を見つめ振り返らせる発問

3 評価の工夫

道徳教育の評価は、教師が児童の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気づける働きをもつ。そのため、教師は、児童のよさや道徳的価値への気づきに対して共感的・受容的に支援することが大切である。また、児童の自己評価も参考にすることで、指導（学習）と評価の一体化を図り、自らの指導を評価すると共に、指導方法などの改善を行うことができる。

(1) 道徳性を高める評価の工夫

本研究では、道徳性検査 (NEW HUMAN) と「道徳的価値アンケート (記述式)」と「自分のよさ探しアンケート (記述式)」を通して、児童の道徳性の実態を把握する。その結果を踏まえて児童の成長につながる評価をしなければならない。構造化方式の道徳授業では、1時間ごとの教育効果を見る観点として、ねらいとして立てた道徳的価値を児童の心が受け入れ、その自覚を深めたかがポイントである。

そこで、本研究では、児童と教師の共同評価を取り入れる。児童からは、教師評価により自分自身が見え、教師からは児童の自己評価によって、児童の道徳性の深まりや指導の評価が見える。具体的には、自己評価を指導過程に合わせた「道徳的価値の自覚を深める4つの視点」の①～④の項目 (P24 参照) で評価していく。まず「視点①」では、資料の主人公と自己とを重ね合わせて考えることができたかを評価したい。「視点②③」については、「道徳的価値のよさへの気づき」や「自己を振り返る」という項目のため、「自己理解」の段階で同時に評価する。そして、「視点④」では、ねらいとする道徳的価値とのかかわりで、自己のよさや課題を発見し、今後に生かそうとする意欲で評価できる。

つまり、①か②③か④のパターンに分けて評価し、児童の道徳性を高めていきたい。

(2) 自分自身への問い掛けを深めるための「道徳学習カードや心のノート」の活用

「道徳学習カード」は、書く活動を通して、道徳的価値に対する考えをまとめ整理することで、自分自身への問い掛けを深めていくために活用する。「道徳学習カード」の工夫として、その時間で心に残った言葉を「心のキーワード」として書かせたい。これを通して、児童は、自分自身の成長や進歩、道徳的価値の自覚を実感でき、自己を肯定的に見つめ、自分自身への問い掛けを深めていくと考える。

さらに、道徳学習カードをポートフォリオ評価し、児童の自己理解を深めさせたい。

「心のノート」は、自らが感じ、考え、これからの課題や目標を見つけるなど、よりよい自己を目指す窓口となるように構成されている。この「ありのままの自分」(人間の自然性) から「よりよい自分」(価値の自覚) へという方向は、「構造化方式」の考え方と合致する。本研究では、事前の実態把握や、事後の価値の振り返りなど、道徳の時間と積極的に関連させながら活用し、自分自身への問い掛けを深めさせたい。

Ⅲ 授業実践

1 総合主題 「かがやけ！夢・未来」

2 総合主題について

(1) 価値観 (省略) (2) 児童観 (省略)

(3) 指導観

児童に夢や希望を育てるためには、まず「児童自身」の思いが最も大切であり、それが出発点になると考える。しかし、道徳性検査 (NEW HUMAN) での児童の実態では、「自分自身に関すること」が、最も指導を要する項目に挙げられていた。そこで、本研究では、特にそれを意識的に深めながら研究を進めたい。

また、視野の広がりの中で、児童は、他の人とかかわりにおいて自らの行動基準を形成していく。それは、当然にそれぞれの人間関係において必要な道徳性を発現させ、身に付けていく。つまり、「自分自身のよさ」を見つめさせる時に「他の人とかかわり」が非常に重要ととらえ、この2つの視点に関する道徳的価値項目を中心にしながら、総合単元を計画し、児童の意識の継続・発展を図りながら、児童の道徳性を育成していきたい。そして、ねらいとする価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた構造化方式の「4つの授業の型」を実践しながら、夢や希望に向かって生きていこうとする児童を育てたい。

道徳学習カードは、書かかせる活動を通して、児童の心の動きの変容などを共感的にとらえていきたい。そして、共感的・受容的なコメントを書き加えて返却する。そうすることによって、児童の自己理解を深め、前向きに生きる意欲が育つと考えるからである。また、児童の自己評価は、指導法改善のデータとして活用したい。

心のノートは、事前の実態把握や事後の価値の振り返りなどで活用し、自分自身への問い掛けを深めさせていきたい。本研究では、心のノートを活用する場面や時期などを明確にし、道徳の授業内容と関連させて積極的に活用することで、夢や希望に向かって生きていこうとする児童を育てたい。

(4) 評価について (省略)

3 総合主題の目標

友達や周りの人とかかわりを大切にしながら自己のよさに目を向け、未来に向けて夢や希望をもち、努力しようとすることができる。

4 総合単元的道徳学習の単元構成表

(「評価：視点〇」は、P24の「道徳的価値の自覚を深める4つの視点」参照)

月	意識の継続・発展	道徳の時間 (構造化方式の授業)	指導の工夫 (◎) 指導の評価・改善 (●)	心のノート
6	夢をもつことっていいなあ。	第1時：有限納得型 夢に届くまでのステップ 1 - (2) 勇気・努力 評価：視点①	◎自分がやりたいことができないと言われた場合を考えさせることで、資料と自分を重ね合わせ、人間の有限性を意識させる。 ●学習カードを2枚書かせたが、書く活動が多かった。そのため自己評価で約2割の児童が無答であった。学習カードの書かせ方が、今後の課題である。横幕を掲示し、自分の夢や未来を意識させることができた。	自分を育てる 【事前：実態把握】 【導入：価値への方向付け】
	自分の夢は、何だろう。	第2時：弱さ把握葛藤型 手品師 1 - (4) 明朗・誠実 評価：視点②③	◎「夢」と「約束」の間で葛藤する手品師の気持ちを「自分だったらどうするか」と想定し、モラルジレンマ的な扱いで討論させる。 ●正しいと思ったことに対して、正直に行動することの大切さに気付けた児童がほぼ全員であった。葛藤場面で「手品師も少年も幸せになる方法があるのでは…」と考える児童が多くなり、児童の思考が資料から離れた。やや判断をせまりすぎた授業であった。	自分を育てる 【事後活用】 生活の中で「ひやかしい」などの状況が見えた場合に活用する
	将来迷った時には、自分の気持ちを大切に生きたい。	Xからの手紙【学級活動】：(構成的グループエンカウンターの手法の活用) <自己理解> ねらい：自分が気付かなかった「自分のよさ」を友達からアドバイスされ、心地よい気持ちを味わい、自己肯定感を高める。		
	友達に自分のよさを教えてもらえてうれしい。	第3時：願い実現追求型 まんが家になろう 1 - (6) 個性伸長 評価：視点②③	◎自分のよさはなかなか理解していないことが考えられたので、事前に「Xからの手紙」(自己理解)を行った。自分のよさを伸ばした「手塚治虫」をより身近に感じさせるため、パネルを作成し授業に臨む。 ●ほぼ全員が、「自分のよさ」を伸ばすことの大切さを実感できた。「とてもよく考えた」と自己評価する児童が約4割だったので、今後も「自分のよさ」について、継続的に意識させるような学習をしていきたい。	自分を育てる 【事前・事後活用】 「Xからの手紙」の前に「自分のよさ」を書かせておき、道徳の授業後さらにふくらませ、記入させた。
	友達と仲よくしたい。	第4時：願い実現追求型 ないた赤おに 2 - (3) 信頼・友情 評価：視点④	◎「ないた赤おに」の話がより、理解できるといふと絵本を作成し、授業に臨む。「よい友達がほしい」という願いは、どの児童ももっているもので、それを「導入」で意識させ、授業を組み立てる。 ●「よい友達がほしい」という願いは、児童自身ももっていたので「とてもよく考えた」という児童が、約8割になった。よい友達を得るために「相手の気持ちを考える」や「相手が喜ぶことをする」などの意見が、出され、生活に生かしたいという児童がいた。	ともに生きる 【事前活用：価値の意識化】
	自分のよさを伸ばし、自分の夢に向かって進みたい。	第5時：弱さ把握葛藤型 くずれ落ちたダンボール箱 2 - (2) 思いやり・親切 評価：視点① 視点②③	◎第2時以降、道徳の授業時間内で、2枚の学習カードを書かせることに無理があったので、「道徳ふりかえりカード」を作成し授業後書かせていた。しかし、ややマンネリ化してきたので、学習カードを1枚にして実践してみる。(振り返りは、自己評価のみ行う) ●学習カードを工夫することで、児童の道徳の授業に対する考え方がよい方向に変わったと思う。書かせる活動をしばらくこみ、より内面で考えさせる時間を確保していきたい。	ともに生きる 【終末：価値のまとめ】
6	自分のよさをもっと見つけながら、友達と仲よくできれば自分の夢や希望がかなうだろう。	第6時：よさ気付き型 おじいちゃんのあたたかな目 2 - (5) 感謝 評価：視点① 視点②③	◎自己の振り返りの場面で「価値の類型」を提示し、今の生活と未来への意欲付けを行う。「導入」で、お世話になっている人を意識させておき、道徳的価値の自覚を深める中で、「感謝の心」に結びつかせる。 ●本総合単元での「他の人とかかわり関すること」のまとめの授業として行った。「人の気持ちに気付く」ことの大切さを授業の中で繰り返し指導してきたので、道徳学習カードに「人の気持ちに気付く、感謝する」という記述が増え、2の視点に関する価値が定着してきていると思う。	ともに生きる 【終末：価値のまとめ】 【事後活用】 様々な人の支えと思いへの気付き。
	よい友達を作っていきたい。			
6	周りの人と仲よくするためには、思いやりの心が大切なんだ。			
	人の気持ちに気づくことは大切なんだなあ。			
6	家庭や地域の人々は、自分の成長を見守ってくれていたんだ。			

7 ↓ 生きていることに感謝しながら、自分の将来を輝かせたい。 ↓ 先人の努力があったからこそ、今の生活があるんだ。 ↓ 賢忠のように自分の夢に向かって努力したい。 ↓ くじけそうな時もあきらめない心が大切だ。 ↓ 周りの人や先人の思いを感じながら自分の夢に向かってがんばりたい。 ↓ 夏休みに自分のできることをがんばろう。	第7時：有限納得型 美しいお面 3 - (3) 敬けん ◎「能面」や「のみ」の実物を見せることで話の内容をより身近に感じさせるようにする。また、児童が赤ちゃんの頃の写真を学習カードで使ったり、家族のほほえましい様子を映像で見せることで、人間のもつ美しい心の中で、自分自身も育ってきたことを自覚させる。 ●児童像②③の価値の自覚では、94%の児童が、ねらいとする価値に深く気付くことができた自己評価できた。カラーで児童の写真を印刷したことは、とても喜んでた。	生命を <u>愛おしむ</u> 【事後：活用予定】 すごいなあ と感動する 場面があっ た時、その 場で活用す る。
	第8時：よさ気付き型 先人の努力を 知ろう【本時】 4 - (7) 郷土愛 ◎郷土資料を活用したり、大里村や沖縄県の伝統芸能をパワーポイントで見せることで、児童に身近な問題ととらえさせ、地域の祭りに参加してきたことなどのよさを自覚させる。 ●郷土のよさを理解させるために、三線を弾いたり、BGMで賢忠の作った曲を聞かせたり、視覚に訴えかけるパワーポイントなど五感に訴えかけた指導は効果的であり、道徳的価値の自覚を深めることができた。と考える。「資料の読み方の工夫」が必要であると指摘され、今後の課題とする。	<u>社会をつくる</u> 【事前活用：価値の意識化】 【事後活用】 改めて記入させ価値の自覚を深める。
	第9時：弱さ把握葛藤型 くじけそうな時 1 - (2) 勇気・努力 心の先生： 比嘉清保さん (元沖縄県立沖縄高等学校教諭) ◎大里村に住む「比嘉清保さん」を心の先生として招き、夢や希望をもつことの大切さを終末の段階で語ってもらう。また、自作資料を活用し、ねらいとする価値を明確にする。道徳の時間に引き続き、学級活動で、清保さんと触れ合う中で夢や希望をもつことの大切さを共に考える。 ●第3時と今回の授業で、「夢をもつことの大切さ」についての自己評価を比較検討すると児童の意識が大きく変わっていることが理解できる。「心の先生」を授業に招くことで、児童は、「夢や希望をもつことの大切さ」を感じることができた。	<u>自分を育てる</u> 【事後活用】 「あこがれる人の生き方」を参考にしながら、自分の夢についてまとめることを「夏休みの課題」とする。

資料1 夢や希望をもつことの大切さについて

項 目	第3時	第9時
とてもよく考えた	47%	89%
まあまあ考えた	47%	11%
あまり考えなかった	6%	0%
考えなかった	0%	0%

5 本時の学習

- (1) 主題名 先人の努力を知ろう 内容項目 4 - (7) 郷土愛
- (2) 資料名 琉球古典音楽の祖「湛水親方 幸地賢忠」 (郷土資料『守礼』を一部改作)
- (3) 主題設定理由

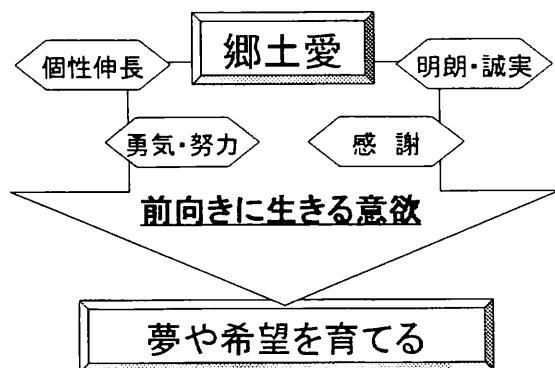


図5 検証授業の中心価値と関連価値

本資料における中心価値として「郷土愛」を挙げ、その価値の自覚を目指す。資料の内容や発問によって、児童は様々な道徳的価値を見出すことができる。例えば、「勇気・努力」「感謝」「明朗・誠実」「個性伸長」などである(図5)。これらの関連価値も児童に「前向きに生きる意欲」の大切さを気付かせることができると考える。この気付きが、児童の夢や希望を育てることにつながるのではないかと考える。また総合単元的道徳学習で意識の継続・発展を図りながら児童の視野を広げ、道徳性を発達させることで、夢や希望が育つと考える。(一部省略)

(4) 本時のねらい

郷土の文化と伝統を守り育てた先人の努力を知り、その大切さに気付き、それを継承し発展させていくことを自覚させる。

(5) 本時の授業仮説

- ① 郷土資料を活用して、構造化方式の考え方に立った発問の組み立てを行い、自己と主人公を重ね合わせることができれば、郷土の文化と伝統を守ることの大切さに気付くであろう。
- ② 自己を見つめ振り返らせる場面で、気付いた道徳的価値に基づいて、道徳学習カードにこれまでのかかわり方や将来の生活への生かし方について書かせれば、自分自身の考えがまとまり、郷土の文化と伝統を継承し発展させていくことの大切さを自覚できるであろう。

(6) 展開

区分	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	1 三線の音を聞いてみよう。 ・琉球古典音楽の祖「湛水親方 幸地賢忠」について、学習することを伝える。	・事前に心のノートに記入させ、郷土に対する意識を高めておく。
展開	2 資料を読んで話し合う。 (1) 賢忠が日本文化のすばらしさに出会いながら、沖縄の音楽の楽しさをきわめようと思ったのは、どんな気持ちだっただろうか。 (資料の中での自然性の理解＜人間の内面にあるよさ＞) ・沖縄の人間だから。 ・沖縄の素晴らしい文化に気付いたから。 ・小さい頃から、聞き親しんできたから。 (2) 位の高い政治家が、賢忠の活動をやめさせようとした時、どんな気持ちになっただろうか。(資料の中での自然性の理解＜人間の内面にある弱さ＞) ・なぜしたいことをさせないのだろう。 ・三線をやめてしまおうかな。 ・ショック。一生懸命やってきたのに。 (3) 仕事をうばわれ、田場村で三線のけいこに励む賢忠はどんな気持ちだっただろうか。(資料の中での「価値の気づき」) ・沖縄に対する文化への誇りがあり沖縄の音楽を極めたい。 ・沖縄の文化を育てていきたい。 3 資料後半を読む。 (4) 仕事復帰できた時、賢忠はどんな気持ちになっただろうか。 (資料の中での「価値の気づき」) ・うれしい。正しいと思った信念をつらぬき通してよかった。 ・地道に努力してきた事を周りの人はきちんと理解し見てくれていたんだな。 4 身近にある伝統文化を見てみよう。 ・この祭りは行ったことがある。 ・ぼくは、この綱引きに参加したことがあるよ。 (5) 私たちは、今までどのように伝統や文化とかかわってきただろうか。また、これから、どのように生かすことができるだろうか。 (自分の「価値の主体的自覚」) ・今まで何気なく祭りに参加してきたが、とつてもよいことだったんだな。 ・地域で踊ったエイサーや綱引きは、毎年とても楽しみにしている。	・資料を読む時、BGMで琉球古典音楽を流す。 ・賢忠が郷土の文化のすばらしさに気付く、郷土の文化に対する誇りと深い喜びを感じたことに気付かせたい。自分の内面にも同じ気持ちがあることに気付かせたい。 (授業の中では、確認するにとどめる。) ・位の高い政治家に従わなかったら、仕事を追われ、生活が苦しくなることを考えさせ、誰もがもつ人間としての弱さを把握する。 ・郷土の文化を守り育てるために、芸を極めようとする賢忠の崇高な態度に気付かせ、人間としての在り方・生き方を深く見つめさせたい。 ・位の高い政治家から仕事はうばわれてしまうが、周りの人々は、賢忠を高く評価していたことを理解させる。 ・実際、児童が今まで何気なく参加してきただろうと予想される祭りの写真を見せ、自分がとってきた行動のよさを見つめさせる。 (行動のよさは気付かないことが予想されるので、教師が補助的に説明する。) (道徳学習カード配布) ★自己を見つめ振り返る場面 ・沖縄の文化のよさや伝統について考えさせ、どのように生かしていくかを考える。
終末	5 教師の説話を聞く。 「沖縄学の父」伊波普猷の言葉 「あなたの立つ場所を深く掘れ、そこには泉がある」	・習い事や地域行事の参加など、伝統文化を継承・発展させるのも自分たち自身であることに触れたい。

6 授業仮説の検証

(1) 授業仮説①について

表4 自己評価の結果

	とてもできた	できた	あまりできなかった	できなかった
視点①	27名	7名	0名	0名
視点④	25名	11名	0名	0名

(「視点〇」は、P24の「道徳的価値の自覚を深める4つの視点」参照) 構造化方式の「発問づくりのポイント」をうまく生かしなが

ら、発問の組み立てを行った。その結果、全児童が、自己と主人公の気持ちを重ね合わせながら考えることができたとして自己評価し(視点①)、「郷土の文化と伝統を守ることの大切さ」という道徳的価値に気付くことができた。

(2) 授業仮説②について

学習カードには、中心価値や関連価値に関する記述が見られ、価値の自覚が深まったと考えることができる。児童Aからは「感謝」や「個性伸長」という道徳的価値を見い出している。また、児童Bは「三線をやってみたい」という前向きな意欲が感じられる。このように多くの児童が「幸地賢忠の生き方に対する共感」を示したり、「郷土の文化や伝統にかかわってきた自分自身の体験」を書くことができ、道徳的価値の自覚が深まったと考える。また、自分自身の琉球舞踊やエイサーなど、経験や体験を生かしなが

(児童A) けんちゅうさんのおかげで、今も三線がある！と思いました。そして、けんちゅうさんは、苦しいことがあっても、自分のいしを曲げないで三線を守りつづけたことは、とてもすごいことだと思います。そして、私は琉舞をやって7年になるけど、もっとつづけて、琉舞を守りつづけます。そして、いろんな伝や文化を大切にしたいです。

(児童B) エイサーをやるときに、ときどきするけど、みんなにみてもらって、みんなもやってほしいなあって思うときがある。けんちゅうっていう人は、しごともなくしたのに、さんしんをつづけたことがすごいと思います。けんちゅうさんが、ひろめたさんしんをやりたいです。

IV 研究の考察

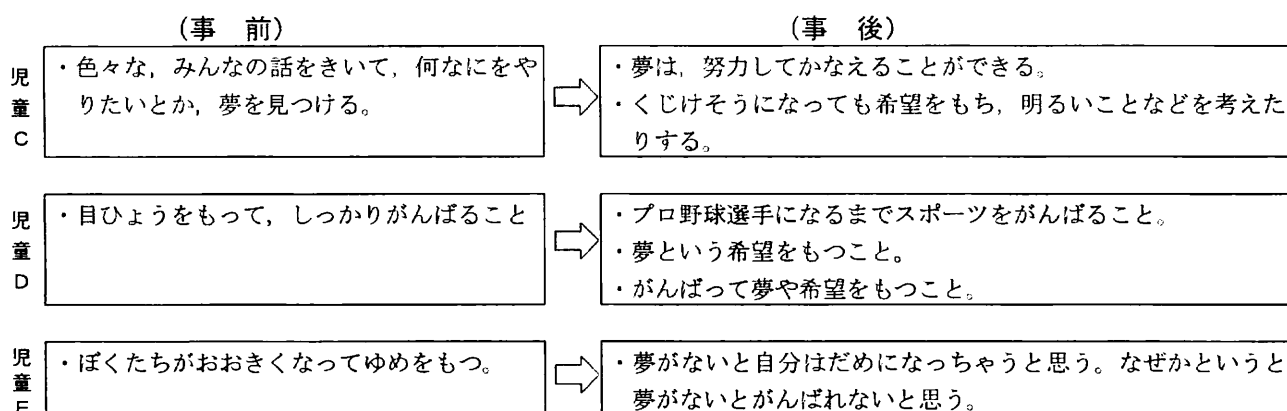
- 1 心に響く資料を活用して、ねらいとする価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた指導過程を明確にすることで、道徳的価値に気付かせることができ、夢や希望を育てることにつながったか。

表5 道徳的価値の自覚(勉強)における自己評価の結果

	とてもできた	できた	あまりできなかった	できなかった
第2時	12名	22名	1名	0名
第3時	14名	20名	1名	0名
第5時	29名	6名	0名	0名
第6時	25名	10名	0名	0名
第7時	34名	2名	0名	0名
第9時	31名	4名	0名	0名

表5から総合単元的道徳学習が進むにつれて、道徳的価値について「とても(考えることが)できた」という児童が増える傾向にある。

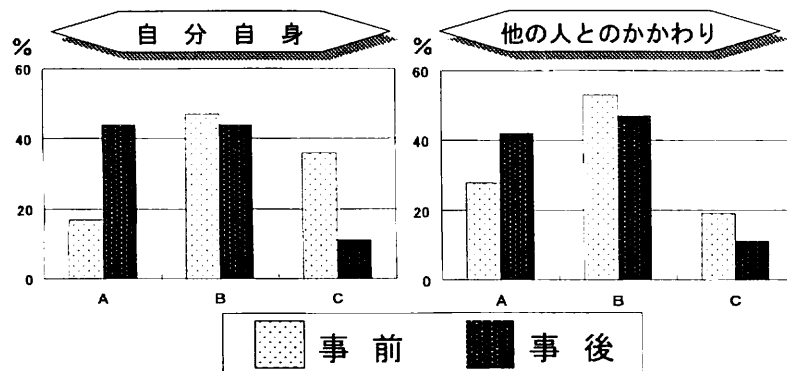
このことから、心に響く資料を活用して、ねらいとする価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた構造化方式の授業を行ったので、道徳的価値に気付かせることができた。



資料2 「道徳的価値アンケート」(一部抜粋)「あなたにとって『夢や希望をもつ』とは、どういうことですか。」

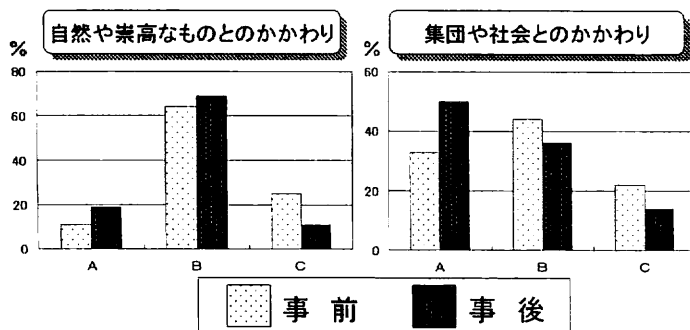
また、資料2の「道徳的価値アンケート」を分析すると、事後は価値に対する記述が、事前と比べ増え、その内容も深まりのあるものになっている。具体的には、児童Cは、夢や希望に対して「みんなの話を聞いて」と他人任せな記述から「努力してかなえる」「くじけそうになっても」と自分自身の問題として考えることができるようになった。児童Dは、漠然と「目標をもってがんばる」という記述が、「プロ野球選手」と具体的な夢を書くことができた。さらに、児童Eは、「大きくなったら夢をもつ(出会える)」と、やや暢気に構える傾向であったが、「夢がないとだめだ」と夢や希望をもつことの大切さや必要性を感じる事ができた。このように、資料2の結果から、毎時間の道徳学習で道徳的価値の自覚を積み重ねたことにより、児童の内面において価値が集積し、統合することで夢や希望をもつことの大切さを自覚することができたと考えられる。

- 2 構造化方式の考え方に立った発問づくりの工夫を行い、指導に生かすことで、道徳的価値の自覚が深まり、夢や希望をもつ児童が育ったか。



資料3 道徳性検査の結果(1の視点, 2の視点)

本研究では、特に「自分自身」と「他の人とかかわり」の2つの視点に関する道徳的価値項目を中心としながら、総合単元を構成し、実践してきた。その結果(資料3)、いずれの視点も「A評価」の児童が、増加している。また、「B評価」「C評価」の児童は減少している。特に、最も指導を要する項目であった「自分自身に関すること」が、大きな伸びを示していた。



資料4 道徳性検査の結果(3の視点, 4の視点)

また、資料4に示してある通り、「自然や崇高なものとかかわり」、「集団や社会とかかわり」に関する視点においても、「A評価」の児童が増加して、「B評価」「C評価」の児童が、減少している。これらの結果から、調和的に道徳性が発達していると考えることができる。さらに道徳性SS (Standard Scoreの略で総合得点) の学級平均は、事前は47.3であった。しかし、事後は51.8と全国基準値50.0をわずかながら上回っており児童の道徳性が発達し、夢や希望が育ちつつあるといえるのではないかと考える。

3 道徳学習カードや心のノートを活用した評価の工夫をすることで、道徳的価値とのかかわりで自己のよさを発見することができ、夢や希望をもつ児童が育ったか。

男 子	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	計
自分でよいと思う所 (事前)	1	1	2	1	1	1	0	1	0	2	1	1	0	1	1	1	15
自分でよいと思う所 (事後)	4	2	1	3	3	2	5	2	4	2	2	1	1	5	1	2	40

女 子	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o	p	q	r	s	t	計	総数
自分でよいと思う所 (事前)	1	1	0	1	2	0	1	1	1	0	1	1	2	1	0	1	1	2	1	2	20	35
自分でよいと思う所 (事後)	4	7	0	4	5	2	1	1	2	2	2	4	4	8	2	1	4	6	3	4	66	106

資料5 「自分のよさ探しアンケート (自分でよいと思う所)」

「自分のよさ探しアンケート」(資料5)では、自分のよさ探しの記述の個数「35個」から「106個」と約3倍に増えている。また、記述内容も事前と比べ、より具体的で充実してきており、自己のよさに気付き、前向きに生きていこうとする意欲が育ち、夢や希望が育ちつつあるのではないかと考える。その中で、記述した個数が増えていない児童についても記述内容が、より具体的になっており道徳的価値の自覚が深まりつつあるのではないかと考察する。

課題としては、自分のよさが見つけられない児童(「女子c」)がおり、よりきめ細やかな個に応じた指導が必要である。今後も児童の成長を見守り、継続的な指導をしていきたい。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 構造化方式の道徳授業で、道徳的価値が児童の心に結びつくメカニズムに基づいた4つの授業の型を考案し、授業実践することで、ねらいとする価値に気付かせることができ、夢や希望を育てることにつながった。
- (2) 構造化方式の考え方に立った発問づくりの工夫を行った結果、道徳的価値の自覚を深めることができた。
- (3) 道徳学習カードを中心として、指導(学習)と評価の一体化を図りながら授業実践することで、道徳的価値の自覚が深まり、夢や希望をもつ児童が育ってきた。

2 今後の課題

- (1) 道徳の時間におけるきめ細やかな「個に応じた指導」を行う。
- (2) 一年間を見通した指導計画の中での総合単元的道徳学習を構想する。
- (3) キャリア教育など夢や希望に直接つながる体験活動を生かした道徳の時間の工夫を行う。

<主な参考文献>

金井 肇編著

『道徳授業の基本構造理論』

明治図書

1996年